

第4回県立病院機能のあり方検討会（議事概要）

1 会議名称

県立病院機能のあり方検討会

2 開催日時

令和7年10月20日（月）18時00分から19時30分

3 場所

神奈川県庁西庁舎8階 健康医療局会議室1（オンライン併用）

4 出席者

【委員】

氏名	職等
井上 貴裕	千葉大学医学部附属病院 副病院長／ 病院経営管理学研究センター長
小松 幹一郎	公益社団法人神奈川県医師会 理事
伏見 清秀（座長）	東京科学大学大学院医歯学総合研究科 教授
本館 教子	公益社団法人神奈川県看護協会 会長
吉田 勝明	公益社団法人神奈川県病院協会 会長

【オブザーバー】

氏名	職等
阿南 英明	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 理事長
本山 博幸	松田町 町長

5 会議の議題

（1）県立5病院の機能及び機能に応じた体制について

（足柄上病院）

（2）その他

6 会議の結果（概要）

① 地域の基幹病院としての機能

＜委員からの主な意見＞

- ・ 高齢者救急の必要性が増してくるので、そこに力を入れて頑張っていくというのは、とても良い方向である。

- ・ 高齢者救急に取り組む上では、搬送、転院、紹介受診など、小田原市立病院との具体的な機能分化・連携が重要であり、しっかり進めてほしい。
- ・ 高齢者救急をやることは基本的に大変なことなので、例えば総合診療科などを軸に、「何でも学べる」「守備範囲が広く外科的な処置もできる」ということを足柄上病院の売りにして、医師等の確保につなげることもできると思う。
- ・ 地域包括医療病棟を視野に入れるのは妥当。ただ、「地域包括ケア病棟」を転換するのか、「急性期病棟」を転換するのかは丁寧な検討が必要かと思う。
- ・ 生産年齢人口が減っていくなかで、医療従事者が他地域に流れているとすれば、県西地域の医療従事者だけでは賄いきれないで、県西地域でやってみたいと思えるような魅力を提供し、医療従事者が集まるようなブランディングがあつた方が良い。

② 必要な体制や規模

＜委員からの主な意見＞

- ・ 病院の運営の効率性という観点はあるが、病床規模については、この地域において、「在宅医療や高齢者施設などの受け皿が十分にあるか」を考慮して検討する必要がある。
- ・ 実稼働200床は妥当で、場合によってはダウンサイズの方向も必要かとは思うが、機能面で急性期、包括期医療、包括期ケアをどのように配置するか、手術部分の機能をどう考えるかによって、必要病床数は変わってくる。小田原市立病院との手術機能の役割分担の方向性など、病棟機能とあわせて、病棟サイズも検討していかなくてはいけないと思う。
- ・ 人口減少、高齢化が進む中、足柄上病院が人員体制等を工夫しながら、高齢者救急や訪問看護、オンライン診療、総合診療等を行っていくことは、神奈川県がフロントランナーとして走るための大変な要素であり、県もしっかりと力を入れてほしい。足柄上病院と小田原市立病院の役割分担のもと、地域の医療を守っていただきたい。

③ 意見を踏まえた今後の対応

第5回以降の議論に反映する。

7 次回の開催

令和7年11月21日